



## ウキウキする季節になりました！！

秋といえば・・・食欲の秋！読書の秋！スポーツの秋！！など様々な事を楽しめる季節になりました。寒い冬になる前のほんの数ヶ月しか秋を楽しむことは出来ませんが、大事なワンちゃん、ネコちゃんと一緒に紅葉を見たり、月を楽しんだりしてみてもいいのではないでしょうか？



## ワンちゃん・ネコちゃんとのスキンシップを兼ねて “グルーミング”をしませんか？

### ネコちゃんのグルーミング

ネコちゃんはキレイ好きな動物のため、自分自身でグルーミングを行うことも多いです。ただし、ネコちゃんの性格や加齢によって飼主様が気を付けてあげる必要もあります。ネコちゃん健康チェックも兼ねて定期的にグルーミングを行いましょ。

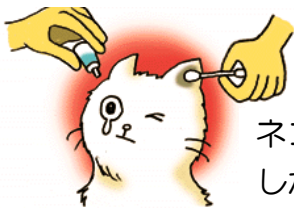


### 1. ブラッシング



本能として定期的に自分で体を舐めることで毛づくろいをしています。その舐めた毛のほとんどは飲み込んで便と一緒に排出されますが、胃の中で丸められて吐き出すこともあります。しかし、上手に出せないと「毛球症」といった問題が起こります。その予防には毎日の「ブラッシング」が大切となります。

ブラッシングには、見た目の毛並をキレイにするだけでなく、皮膚の血行を良くするマッサージ効果もあります。無理にブラッシングを行うと、ネコちゃんが嫌いになってしまいます。ネコちゃんのペースに合わせて毎日少しずつ始めていきましょう。



### 2. 耳のケア

ネコちゃんはワンちゃんに比べ耳の中が汚れにくいと言われています。しかし、体質的な問題などで汚れやすい子もいますので、定期的に耳の中の様子をチェックしてあげましょう。汚れを放置すると外耳炎などの原因ともなります。耳垢の量や耳の赤みの有無、臭いなどをチェックしてください。

### 3. 爪切り



ネコちゃんは自身で爪とぎをしますが、住環境の問題や加齢により、爪とぎができない・しなくなる子もいます。そうになると、爪が厚くなって隠せなくなったり、巻爪になったりすることがあります。（人もそうですが、巻爪は本当に痛いです・・・。）

伸びすぎた爪はネコちゃん&飼主様の両方に危険になりますので、定期的に切ってあげることをお勧めしています。ネコちゃんの爪を切る際は必ずネコちゃん用の爪切りを使用してください。

## ワンちゃんのグルーミング

ワンちゃんは自身でグルーミングをすることはあまりありません。ワンちゃん健康チェックも兼ねて定期的にグルーミングを行きましょう。

### 1. 爪切り



ワンちゃんは運動中に爪が地面とこすれることにより、少しずつ削れ、伸びすぎることはありません。年齢を重ねてくると、ワンちゃんの筋力が低下し始めます。その結果、歩く、走るなどの運動を嫌がるようになります。その結果、爪が削れにくくなることで、爪が伸びやすくなってしまいます。爪が伸びすぎると、ワンちゃんが歩きにくい、根元から折れる・巻き爪のように皮膚に食い込むなどの怪我、関節（指）の変形を起こす可能性がありますので注意しておきましょう。

### 2. 足回りカット



年齢を重ねて筋力が低下してくると、足腰が少しずつ弱くなり、「踏ん張る」ことが苦手になってきます。ご自宅内で飼育されていてフローリング環境の場合は、足回りの毛が伸びてしまうと、滑りやすくなり転倒によるけがにつながる可能性があります。また、毛が伸びすぎた状態が長く続くと、皮膚の炎症につながります。足回りの状態をチェックしてあげてください。

### 3. 肛門腺しぼり

年齢を重ねてくると、ワンちゃんは肛門囊にたまる分泌物を自力で排出することが困難になります。お尻をこすりつけたしたら、要注意です。放置しておくと炎症を起こしたり、肛門囊が破裂してしまいます。特に小型犬の場合は元々の排出能力が低いため、溜まりやすい傾向があります。診察時に簡単にケアできますのでご相談ください。



**グルーミングをすることで小さな異変にも気づきやすく♪**

# 学べる ワンニャン語クイズ

問題1：ワンちゃんが靴やスリッパを噛みますが、なぜでしょうか？（答えは下です。）

- ① 美味しいから。
- ② 飼い主の臭いがして落ち着くから。
- ③ オモチャとして遊んでいるから。

問題2：野良猫が夜に公園や駐車場で集まり「夜の集会」をしていることがあります。集会で何をしているのでしょうか？（答えは下です。）

- ① 縄張りを仕切るリーダー猫を決めるための喧嘩
- ② 野良猫同士の顔みせ
- ③ 単に暖をとるために集まっている

## 野良猫を積極採用する企業



人の仕事には、よく「適材適所」という言葉を聞きますが、アメリカ合衆国のシカゴでは、急増するネズミの被害を防ぐために、猫を採用したというケースがありました。

採用したのはビール醸造会社ですが、同会社があるシカゴは「アメリカで最もネズミが多い街」に選ばれており、ビールの原料をネズミが食べる事に困っていました。そのため、あらゆるネズミ駆除方法を試してみましたが、成果が得られなかったのですが、地元の動物保護団体から猫を引き取って、社内を自由にパトロールさせてみたところ、大成功！会社から、ネズミは見られなくなりました。今回の一件で、本来ならば処分されてしまう野良猫の新たな居場所が見つかり、人にとっても猫にとっても嬉しい状況になりました。

## 犬を保護した男性に警察が…

アメリカ合衆国コネチカット州のダン・ティレリーさんは、犬の保護施設からディギーと名付けた犬を引き取りましたが、そのディギーの写真をネットに投稿したところ、警察から「3日以内にお宅のピットブルを手放すように」と注意勧告をされました。

警察の言い分としては、「ピットブルは顎が強く、人を襲う事がある危険な犬種であるため、条例で飼育する事が禁止されており、近隣住民から苦情があったため」との事でした。しかし、ディギーは飼育が認められているアメリカンブルドックであり、獣医師から認定していただき、無事手放すことなく済みました。



答え 問題1 ③ワンちゃんにとって、靴やスリッパは紐がついていたり、柔らかいところや硬いところがあり、楽しい事だらけです。また、それらを咬んでいると飼い主がおいかけてくるので、それを楽しんでいる事もあります。

問題2 ②繁殖時期であれば、交尾の場でもありますが、普段は、顔見せの場になります。猫ちゃんは自分の縄張りを持っていますが、どうしても縄張りが重なりがちになるため、重なる野良猫同士で、顔見せし連携する事でよそ者の侵入を防ぎ、その地域の猫社会を守っています。

# 本の広場

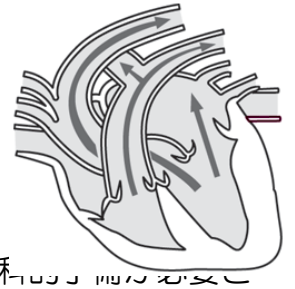
## 愛犬が「僧帽弁閉鎖不全症」と診断されたら読む本 (幻冬舎)

近年、ペットの犬の死因は、1位：がん、2位：心臓病とされています。

特に、「僧帽弁閉鎖不全症」は、心臓病の中でも最も発症率が高い病気であり命にかかわる病気でもあります。そのため、早期発見・治療が大事なものになります。

この恐ろしい犬の心臓病は投薬と手術で治療しますが、投薬治療はあくまでも病気の進行を抑えて症状を緩和するだけなので、根本的な治療には外科手術が必要になります。

今回の書籍は、「僧帽弁閉鎖不全症」がどのような病気であり、どんな検査で発見できるのか、どんな治療法があるかなど、この1冊で「僧帽弁閉鎖不全症」のことが理解できるものとなっています。



### 《本の目次》

#### 第1章 愛犬の命を奪う「僧帽弁閉鎖不全症」とは何か

(心臓病は不治の病ではない／心臓病の中で発症率ナンバー1の僧帽弁閉鎖不全症 ほか)／

#### 第2章 「僧帽弁閉鎖不全症」と診断されたら？-飼い主がすぐにとるべき5つの行動

(もしかして僧帽弁閉鎖不全症？飼い主にできるチェック方法／「僧帽弁閉鎖不全症」の適切な検査を受けましょう ほか)

#### 第3章 投薬だけでは完治できない-「僧帽弁閉鎖不全症」は手術で治す

(人間では「手術」が当たり前の治療法／犬の「僧帽弁閉鎖不全症」で手術が難しかった理由とは ほか)

#### 第4章 食事、運動、生活 飼い主が知っておきたい術前術後の準備とフォロー

(手術前の過ごし方-とにかくいつも通りに／手術室に入る愛犬に贈るメッセージ ほか)

第5章 病院選びと手術のタイミング-早期の手術で愛犬の健康を取り戻す(安心して治療を受けるための医療機関の選び方／投薬治療のノウハウがしっかりしているかを見極めるほか)

## この1冊で、僧帽弁閉鎖不全症について

少しでも知ってみませんか？